

お父さんたちがライブ感覚で繰り広げる「絵本お話し会」

パパS絵本プロジェクト

お父さんの子育て参加が叫ばれる中、就寝前に我が子に絵本を読んでいた現役おとうさんたちが、たまたま出会ったことから『出前お話し会』グループを結成し、各地でライブ感覚の『お話し会』を開いて、好評を得ているということでインタビューさせていただきました。



大野児童クラブでの活動 18.1.14

「みんな！田中パパと約束してくれる？これから読む絵本に出てくる言葉を、おうちや学校では、セツタイに言わないこと。約束できるかな？」

子どもたちは、何が出てくるのか興味津々。「ウサギの子は…うんちっち…」とお話が始めると、「うわ～、きたね～、うんちっちだって」「やだ～」と大騒ぎ。田中パパは、時には明るい声で「うんちっち」、ある場面では、低い声でドスをきかせて「うんちっち」。その度に歓声や笑い声が響く。隅のほうで聞いていたお母さんのひとは、げらげら笑った後「う～ん、これは絶対に口癖になるね！」と、ちょっぴり渋い顔。

相模原市の大野児童クラブで開かれたお話し会。でも、絵本を読む

のは、お母さんではなく、エプロン姿のお父さん3人。学校などでの「お話し会」や「読み聞かせ会」は、「はい、それではこれからお話し会を始めます。みんな、静かに聞こうね」と始まるのがほとんど。しかし、このお父さんたちは、子どもが騒いでいようとお構いなし。安藤パパは、ポケットから輪ゴムを取り出し、「これ、な～んだ」「どのくらい伸びると思う？」。すると、子どもたちは、「このくらい」「そんなに伸びるわけないよ」と、いつの間にか安藤パパの方を向いています。こうなればパパSのペース、子どもたちの反応を見ながら、アドリブで読んでいきます。ウクレレ・ギター・タンバリンも出てくるし、新聞を引きちぎって撒き散らすなど、ストリートライブに近い、ダイナミックな「お話し会」。



丸善本店での活動 17.12.17

「パパS絵本プロジェクト」のはじまりは、安藤パパ・田中パパ・金柿パパの3人が、仕事の関係で知り合い、「子どもと一緒に絵本を読むのが好き。寝る前に子どもに絵本を読んであげている」という共通点を見つけたことで意気投合。自分の好きな絵本を持って居酒屋に集まったことでした。子育て年齢の男3人が、居酒屋で絵本を広げて盛り上がっている光景は、想像しにくいものがありますが、3人の中では、かなり盛り上がったそうです。

「自分たちが楽しいと思っていることに対して、周りの人はどんな反応をするのか見てみたかった。でも、何よりも、自分たちがもっと楽しめることをやりたかったんです」「まさに、草野球チームを結成する時のお父さんたちと同じノリでしたよ」。

「自分たちが楽しいと思っていることに対して、周りの人はどんな反応をするのか見てみたかった。でも、何よりも、自分たちがもっと楽しめることをやりたかったんです」「まさに、草野球チームを結成する時のお父さんたちと同じノリでしたよ」。

最初のお話し会は、東京の丸善本店で行われ、「緊張してうまくできたかどうか覚えてないです。でも楽しかった」。以来、毎月1回の土日を「パパ

パパS絵本プロジェクトからのメッセージ

「やってみると、本当に楽しいから、是非絵本を読んであげてほしい」

「義務感でやったら続かないので、絵本を介して子どもとの楽しい時間を持つ感覚でやるといい。何より自分自身が楽しむことが一番です」

「お母さんが選んだ絵本より、お父さん自身がおもしろいと思う本を買ってきて読んであげるといいと思います」

「ぼくたちは、家で子どもに読んでいる本を持って来ているんです」。



大野児童クラブでの活動 18.1.14

S絵本プロジェクト」の活動日としています。

現在では、全国から依頼がくるようになり、条件が合えば、遠方まで泊りがけで出かけることもあり、会場が近い場合は、我が子同伴で出かけていく。そして、お話し会が終わるとパパSとキッズの楽しい食事をもちます。

現在メンバーは、西村パパが加わり、4名で活動しています。「3～4人くらいが、スケジュールを合わせるにもベストなんです」。今後メンバーを増やす予定はないが、長野県伊那市など、各地に支部ができつつあり、毎年「父の日」には、軽井沢に全国の絵本好きファミリーが集まり、「お話し会キャンプ」を行い、絵本を読み合うとのことでした。キャンプの食事は、もちろん、お父さんたちが担当します。

安藤パパは、「当然、家事もやりますよ。でも絵本は、ぼくにとって、子どもたちとの大切なコミュニケーションの時間なんです」「でも、子どもが大きくなるのは早いよね。今のうちだね」と女の子を持つ父親の気持ちタップリに話してくれました。

田中パパは、ふたり目の子どもが2歳になったころから、日々の読み聞かせを大学ノートに記録するようになり、「どうしてひとり目から記録しなかったのだろう」と悔しい思いをした反省から、毎日の読み聞かせを記録する育児日記『絵本ダイアリー』を出版し、「父と子(母と子)を結ぶ一助になれば」と話してくれました。

パパS絵本プロジェクトのメンバー紹介

安藤哲也さん(楽天ブックス店長 子どもは8歳と5歳) / **田中尚人さん**(グランまま社編集長 子どもは11歳と3歳) / **金柿秀幸さん**(インターネットサイト「絵本ナビ」を運営 子どもは5歳) / **西村直人さん**(プロキーボード奏者、オリジナル童謡作家 子どもは15歳と11歳と10歳)